

宮代町郷土資料館

平成十四年度 企画展

十二月十四日～二月十六日まで

南埼玉地区 中世の遺跡



入場無料・月曜休館（年末年始の休館は12/28～1/4）
南埼玉郡宮代町西原289 ☎0480-34-8882
ホームページ <http://www2.town.miyashiro.saitama.jp>



開催にあたって

埼玉地区では近年の発掘調査の増加により、縄文時代の遺跡だけでなく中世と呼ばれる鎌倉時代から戦国時代の遺跡の調査例が多くなりつつあります。菖蒲町の菖蒲城や春日部氏館跡と伝わる^{はまかわど}浜川戸遺跡、中世の居館が発見された白岡町の^{いりごうち}入耕地遺跡、岩付太田氏や後北条氏の拠点の城郭であった岩付城などです。この他にも、蓮田市の^{うるいどほりのうち}閨戸堀之内遺跡や宮代町の^{でんしょうはたもとはっとりしやしきあと}伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡からも戦国時代の堀や遺物が発掘されています。



また、各市町村の博物館でも白岡町や宮代町、春日部市、岩槻市などで展示会が開催され、埼玉地区の中世遺跡の状況が明らかとなりつつあります。こうしたことから今回の企画展では本町その他、春日部市、白岡町、菖蒲町、岩槻市の御協力のもと、それぞれの地域の主な中世遺跡の遺跡について一同に展示させていただきました。

城館跡から見た中世の世界をご覧ください。

宮代町郷土資料館

凡例

- 1) 本書は平成 14 年 12 月 14 日から平成 15 年 2 月 16 日にかけて開催する宮代町郷土資料館企画展「埼玉地区の中世遺跡」の展示解説書です。
- 2) 本書並びに展示した写真は一部の借用資料を除き河井伸一、菊地美絵が撮影しました。
- 3) 本展示の企画構成並びに本書の執筆は河井伸一が行い、編集は長谷川弘樹が行いました。また、展示は資料館職員等が協力し行いました。
- 4) 資料提供・協力者一覧（敬称略）
埼玉県立埋蔵文化財センター、岩槻市教育委員会、春日部市教育委員会、白岡町教育委員会、木戸春夫、新屋雅明、青木文彦、奥野麦生、松崎慶喜、中野達哉

しょうぶじょうあと
菖蒲城跡



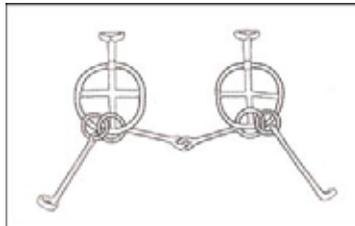
移築された旗本内藤氏の栢間陣屋の陣屋門

菖蒲城は康正2年(1447)に古河公方足利成氏の家臣佐々木(金田)式部則綱が築いたと伝えられています。この頃、関東地方は古河公方と山内上杉氏、扇谷上杉氏の三つ巴の抗争が繰り広げられていたため、古河公方の最前線の城郭として築かれたと推定されます。

天正2年の上杉謙信の関東出兵に関わる古文書にも「少輔(菖蒲)城等、悉武州敵地放火成」とあり、この頃、菖蒲佐々木氏は後北条氏の家臣となり、騎西城や岩付城と共に後北条氏の支城となっていました。

菖蒲城で発掘された出土遺物の分析によると15世紀後半から16世紀後半とやや幅を持っていますが16世紀中頃が主体のようです。その頃、小田原の後北条氏と上杉謙信は関東の覇権を握るため、この地方で盛んに戦ったことが確認されています。菖蒲城も後北条氏と上杉氏の間で戦国の世の悲哀を味わったのでしょうか。

なお、菖蒲城主佐々木氏は、応永年中宮代の須賀の地に居をかまえのちに白岡、菖蒲へと移ったと伝えられています。



轡(くつわ)

馬具の一種。馬の口にくわえさせておき、手綱をつけて使用する。

毛抜き



火縄銃の弾丸
 火薬と一緒に銃口から棒で押し込めて使用された。



中国産青磁碗



中国産染付

瀬戸美濃産香炉



中国産染付

中国産五彩碗



いわつきじょうあと
岩付城跡

岩付城は従来、扇谷上杉氏の家臣太田道灌^{どうかん}が築城したといわれてきましたが、最近の研究では戦国時代前半に古河公方足利氏の家臣の成田氏により築城されたことが確認されています。その後、岩付城は太田道灌の子孫の岩付太田氏により支配されましたが、太田三楽斎資正は上杉謙信の関東出兵に呼応し、後北条氏に反乱を起こした結果、息子の氏資に岩付城を追放されました。その後、氏資は三船山合戦で戦死し、後北条氏が岩付城を管理していました。



岩付城 黒門

岩付城は発掘調査の結果、戦国時代前半と江戸時代の岩付城は大きく違っていたことが明らかとなっています。それは戦国時代後半の後北条氏のもとで城の大改造が行われたためと推定され、城跡の随所でその痕跡が確認されています。



カワラケ



瀬戸美濃産
 縁皿



常滑産甕

瀬戸美濃産縁釉小皿とカワラケセットの灯明皿



在地系
 播鉢



白岡町の中世の館跡

^{いりごうち}入耕地遺跡は白岡町大字白岡に所在する中世の館跡が発掘された遺跡です。大規模な堀で区画された館の中からは掘立柱建物跡の柱穴や井戸、柵列などのほか中国産の青磁や白磁、愛知県常滑産の甕、瀬戸美濃産の陶磁器などが発掘されています。

この館に住んでいた人物は明らかではありませんが、入耕地遺跡は、^{おにくぼし}鬼窪氏と関係の深い白岡八幡宮や正福院と近いことから鬼窪氏の館跡と関係が深いと考えられています。

山遺跡は白岡町大字白岡に所在する遺跡です。周囲には館跡の伝承もないところでしたが、発掘調査の結果、堀跡や建物跡が発掘され中世の館跡であることが明らかとなりました。



瀬戸美濃産縁釉皿



瀬戸美濃産折縁皿

白岡町の中世寺院と関わりのある遺跡

^{あかつちやり}赤砂利遺跡は白岡町大字上野田に所在する遺跡です。発掘調査によって、深い穴から木製の櫛や和鏡、中国産の白磁などが発見され墓穴であったと推定されます。赤砂利遺跡のすぐ近くには大徳寺が所在し、新田義貞が鎌倉幕府討伐のときに大徳寺に寄ったことから、鎌倉方が攻めてきて寺を焼かれたとの伝承も残っています。現在でも、その時焼失した本尊の一部が伝わっており、赤砂利遺跡は大徳寺との関係から中世の寺院跡の可能性があると考えられます。

神山遺跡は白岡町大字白岡に所在する遺跡です。遺跡近くには菖蒲佐々木氏にゆかりの深い興善寺があります。神山遺跡からは火事による建物の残材を埋めた穴から金銅仏が出土しました。平安時代末から鎌倉時代初めの作と思われます。この他、戦国時代末から江戸時代初頭の天目茶碗や志野碗、青磁などが出土しています。



瀬戸美濃産志野皿



瀬戸美濃産天目茶碗

春日部市の中世の館跡

春日部市浜川戸に所在する^{はまかわど}浜川戸遺跡からは、漆器や青磁、白磁、木製品などが多数出土しています。この周辺は春日部市の市名の発祥地である春日部氏の館があった場所と伝えられてきました。浜川戸遺跡からは140 × 110 mの楕円形の内堀とそれを取り囲む3重の堀が確認され、掘立柱建物跡は内堀を中心としながらも、その外側まで広がっていることが明らかとなっています。

^{こがちやましたきた}小淵山下北遺跡は春日部市大字小淵に所在する遺跡です。宮代町字川端の古利根川対岸にあたります。発掘調査の結果、掘立柱建物跡などが発掘され、中世の館跡であることが確認されました。出土遺物の中には志野焼や織部焼など16世紀最末から17世紀初頭の遺物の他、二引両の紋が入った漆器が出土しています。古河公方足利氏家臣である幸手一色氏も二引両の紋であることから、一色氏と関係のある者の居館であった可能性が指摘されています。



常滑産甕



漆器碗

炭化した米



白磁小碗



漆器碗



桶の底板

宮代町の中世の館跡

でんしょうはたもとはっとりしやしきあと

伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡は宮代町字西原に所在する遺跡です。この地域周辺は安土桃山時代から江戸時代初頭にかけて太田荘 3000 石を領有した旗本服部権太夫の屋敷跡と伝わっています。伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡の発掘調査の結果、掘立柱建物跡や堀跡、井戸、竪穴状遺構などが発掘されています。遺物の分析によると 13 世紀後半から 18 世紀までの遺物が発掘されていますが、16 世紀最末から 17 世紀初頭の遺物が多い傾向にあります。これらのことから、戦国時代に百間郷の在地領主の館として利用された後、徳川家康の家臣旗本服部氏が屋敷に利用した可能性があると推定されます。

中寺遺跡は宮代町字東に所在する遺跡です。発掘調査の結果、15 世紀後半から 19 世紀の遺物が発掘されていますが、その中心は 17 世紀代といえます。戦国時代の百間郷の領主で後に百間東村の名主を勤めた鈴木雅楽介（日向守）うたのすけ やその子孫の屋敷との関係もあるものと推定されます。



肥前唐津産折縁皿



瀬戸産志野皿



瀬戸産折縁皿



古銭「こうぶつうほう 洪武通宝」

1368 年に中国で明が成立し、年号を「洪武」と改めると同時に作られ始めた硬貨。



瀬戸産擂鉢



鏡

本展示における中世の遺跡



しょうほうじょうあと
菖蒲城跡



かみやまいせき
神山遺跡



でんしょうほもとほつりし
伝承旗本服部氏
屋敷跡遺跡



なかでらいせき
中寺遺跡



こぶちやまたきたいせき
小淵山下北遺跡



はまかわどいせき
浜川戸遺跡



いりごうちいせき
入耕地遺跡



やまいせき
山遺跡



いわつぎじょうあと
岩付城跡

